

RISTEX（社会技術研究開発センター）

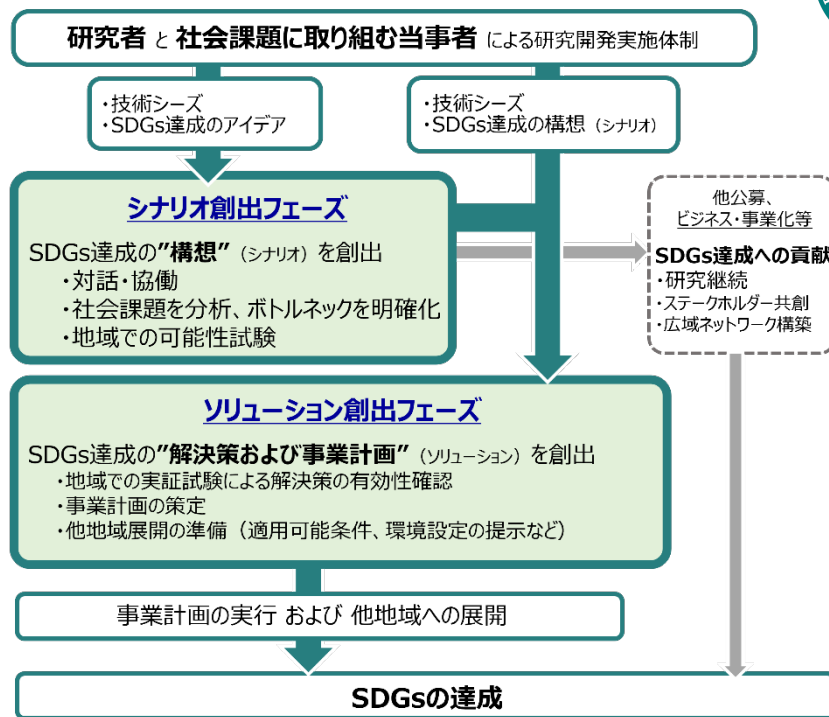


- 「社会のなかの科学・社会のための科学」※の理念の下、SDGsを含む社会課題の解決や新たな科学技術の社会実装に関して生じる倫理的・法制的・社会的課題（ELSI）への対応に資する**社会技術の研究開発**を、提案募集し採択した複数のプロジェクトによって推進。
- **人文・社会科学**及び**自然科学**の様々な分野の**研究者**と社会の問題解決に取り組む「**関与者**」（**ステークホルダー**）が協働するためのネットワーク構築を支援し、**学問知**だけでなく**現場知**も活用した研究開発に取り組んでいる。

※平成11年『世界科学会議』で発表された「科学と科学的知識の利用に関する世界宣言」（ブダペスト宣言）における新たな理念の一つ。

<研究開発プログラムの一例>

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム



SOLVE for SDGs

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム

（令和元年度よりプログラム開始）


【プログラムの目標】

- ✓ STI(科学技術イノベーション)を活用して特定の地域における社会課題を解決し、その成果を事業計画にまでまとめ上げ、**国内外の他地域に展開可能なソリューション**として提示すること。
- ✓ 研究と社会課題を抱える現場を確実に結びつけるために、「**研究代表者**」と地域で実際の課題解決にあたる「**協働実施者**」の**共同提案**を必須に設定。
- ✓ **自然科学**や**人文・社会科学**の知識や技術、さらには**ステークホルダー**との対話・協働を通じて得られる「**現場知・地域知**」なども活用し、「シナリオ創出フェーズ」と「ソリューション創出フェーズ」の二段階構成でSDGsの達成に資する成果の創出をめざす。

<研究開発プロジェクトの一例> SOLVE for SDGs ソリューション創出フェーズ プロジェクト実施期間：令和元年11月～令和5年3月

福祉専門職と共に進める「誰一人取り残さない防災」の全国展開のための基盤技術の開発

・研究代表者：立木茂雄(同志社大学 社会学部 教授) ・協働実施者：村野淳子(別府市 防災局 防災危機管理課 防災推進専門員)

解決すべき社会課題	研究開発の概要	達成すべきゴール
<ul style="list-style-type: none"> ■ 災害時に障がい者や高齢者に被害が集中する「災害弱者問題」は、平時の保健・福祉と災害時の防災・危機管理の取組の縦割り・分断に根本原因がある。 ■ その解決には、平時から福祉と防災を切れ目なく連結し、障がい者や高齢者と相談しながら個々の身体状態等に応じた「災害時ケアプラン」を作成できる福祉専門職の育成が必要であるが、そのための基盤技術の開発には至っていないのが現状。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 障がい者や高齢者など要配慮者の平時の保健・福祉サービス等利用計画を策定する相談支援専門員や介護支援専門員が、災害時の個別支援計画についてもプラン案を作成し、地域住民との協議の場で要配慮者と近隣住民をつなぐ役割を担うことを目的に別府市で開発されてきた「別府モデル」を全国展開するための基盤技術を開発。 ■ 災害被害シミュレーションに基づく生活機能アセスメントツールのアプリ化、地域プラットフォーム形成技術の確立などとともに、災害時ケアプランを作成できる福祉専門職の育成プログラムを構築し、プラン作成の報酬化についての制度改正に関して自治体と共に提言をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 災害時の個別ケアプランを立案できる福祉専門職人材の養成と全国展開・社会制度化による「誰一人取り残さない防災」の実現。 

研究開発のアプローチ



「自分で作る安心防災帳」アプリ



避難行動要支援者の避難訓練の様子